

InstallShield 2019

リリースノート

オリジナル リリース 2019 年 4 月、R3 を含むアップデート リリース (2019 年 12 月)、R2 を含むアップデート リリース (2019 年 8 月)

はじめに.....	3
R3 での変更点.....	3
Docker コンテナ上の Standalone Build.....	3
ファイル リダイレクト fixup のサポート.....	3
OLE DB Driver for SQL Server の使用.....	4
データベース サーバーの SQL ドライバーを選択する.....	4
オートメーション インターフェイスを使って [パッチ デザイン] のパッチを構成できる機能.....	4
R2 での変更点.....	5
MSIX - パッケージ サポート フレームワーク.....	5
R3 で修正されたバグ.....	6
R2 で修正されたバグ.....	6
新しい機能.....	6
MSIX プロジェクト タイプを使って MSIX パッケージをビルドする.....	6
パッケージ情報.....	6
パッケージ ペイロード.....	7
メディア.....	7
MSI からMSIX への変換ウィザード.....	7
基本の MSI の MSIX 検証スイートをビルド.....	8
スイートへの MSIX の追加.....	8
新しいプロジェクトウィザード.....	8
強化機能.....	9
InstallShield 2019 R2.....	10
連続する署名の遅延.....	10
IsCmdBld.exe パラメーターを使ってデジタル証明書パスワードを指定する.....	10
スイート プロジェクトで、ISM パッケージへのリンクに相対パスを使用可能にする.....	11
SQL 2012 Native Client 前提条件のアップデート.....	11
PRQ 条件に Windows Server 2019 を追加.....	11
InstallShield 2019.....	11
選択された証明書の詳細を表示する.....	12
オペレーティング システム要件として Windows Server 2019 を追加.....	12

定義済みインストール条件の追加	13
デジタル署名におけるタイムスタンプ サーバーの更新	13
MSBuild を使ったスイート プロジェクトのサポート	13
デバッグ ログ ファイル名のカスタマイズ	14
カスタム リターン コードのカスタマイズ	14
セットアップ ファイル名のカスタマイズ	14
InstallShield Standalone Build のサポート	15
追加された前提条件	15
Microsoft .Net Core 2.1 ランタイム 前提条件	15
重要な情報	15
同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアをアップデートする必要があります 16	
InstallShield の評価	16
InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する	16
InstallShield の複数エディションをインストールする	17
InstallShield の複数バージョンをインストールする	17
[リリース] ビューから [.NET/J#] タブの削除	17
DLL プリロード攻撃対策のため、DLL 検索パスから現在のディレクトリを削除	18
プロジェクトのアップグレードに関するアラート	18
InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報	19
ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更	19
文字列のローカライズに関する考慮	19
バグ修正	20
InstallShield 2019 R3	20
InstallShield 2019 R2	21
InstallShield 2019	23
システム要件	24
InstallShield を実行するシステムの要件	24
ターゲット システムの要件	25
既知の問題	26
法的情報	26

はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer または InstallScript ベースのインストール、MSIX パッケージ、および Microsoft App-V パッケージをオーサリングできる業界標準ツールです。

InstallShield 2019 では、最新テクノロジーを手軽に使用できる新しい機能、強化機能とバグ修正内容も提供されています。

R3 での変更点

InstallShield 2019 R3 には、以下の変更が含まれています:

- [Docker コンテナ上の Standalone Build](#)
- [ファイル リダイレクト fixup のサポート](#)
- [OLE DB Driver for SQL Server の使用](#)
- [データベース サーバーの SQL ドライバーを選択する](#)
- [オートメーション インターフェイスを使って \[パッチ デザイン\] のパッチを構成できる機能](#)

Docker コンテナ上の Standalone Build

今回より、InstallShield Standalone Build (SAB) を Docker コンテナ内にインストールおよび実行することが可能です。

Docker Hub 上に InstallShield 2019 R3 Standalone Build をセットアップする方法について、または Docker 上にセットアップ済みの InstallShield 2019 R3 Standalone Build をダウンロードする方法については、[Flexera Community ナレッジ ベース](#)に掲載されています。

ファイル リダイレクト fixup のサポート

以前のリリースで、InstallShield に MSIX のファイル リダイレクトおよびカスタム fixup を含むパッケージ サポート フレームワークのサポートが追加されました。

InstallShield 2019 R3 リリースでは、ファイル リダイレクト fixup パラメーターの実行可能ファイル名をカスタマイズすることができるように機能が強化されています。この強化は、複数プロセスの起動を行う実行可能ファイルに適用します。

以前のリリースでは、リダイレクト fixup パラメーターの実行可能ファイルは、プライマリ プロセス名と同じ名前が使用されました。InstallShield 2019 R3 には、MSIX プロジェクト タイプの **[アプリケーションの設定]** ビューにある **[パッケージ サポート フレームワーク]** 領域に、新しい **”実行可能ファイル”** フィールドが追加されました。ここでリダイレクト fixup パラメーターの実行可能ファイル名を指定することができます。デフォルトで、値としてプライマリ プロセス名が入力されます。

OLE DB Driver for SQL Server の使用

以前の Microsoft OLE DB Provider for SQL Server (SQLOLEDB) および SQL Server Native Client OLE DB provider (SQLNCLI) は、引き続き使用できません。

現在、Microsoft から Microsoft OLE DB Driver for SQL Server (MSOLEDBSQL) と呼ばれる新しい OLE DEB プロバイダーがリリースされています。

InstallShield 2019 R3 では今回より、Microsoft OLE DB Driver for SQL Server (MSOLEDBSQL) を使って TLS 1.2 のみの環境をサポートします。



上級者向けメモ・Microsoft OLE DB Driver for SQL Server (MSOLEDBSQL) は、InstallShield 2019 R3 に前提条件として含まれています。

データベース サーバーの SQL ドライバーを選択する

InstallShield 2019 R3 では今回より、使用するデータベース サーバー用のドライバー一覧から、ドライバーを選択することができます。

デフォルトで、新しい SQL 接続には、[要件] タブで Microsoft OLE DB Driver for SQL Server (MSOLEDBSQL) が表示されます。

オートメーション インターフェイスを使って [パッチ デザイン] のパッチを構成できる機能

以前は、オートメーション インターフェイスを使って [パッチ デザイン] のパッチを構成することができませんでした。オートメーションでは、既に作成済みのパッチのみをビルドすることができました。

InstallShield 2019 R3 リリースから、[パッチ デザイン] のパッチをオートメーション インターフェイスを使って構成することができます。



メモ・この問題は IOC-000046402 として記録されています。

R2 での変更点

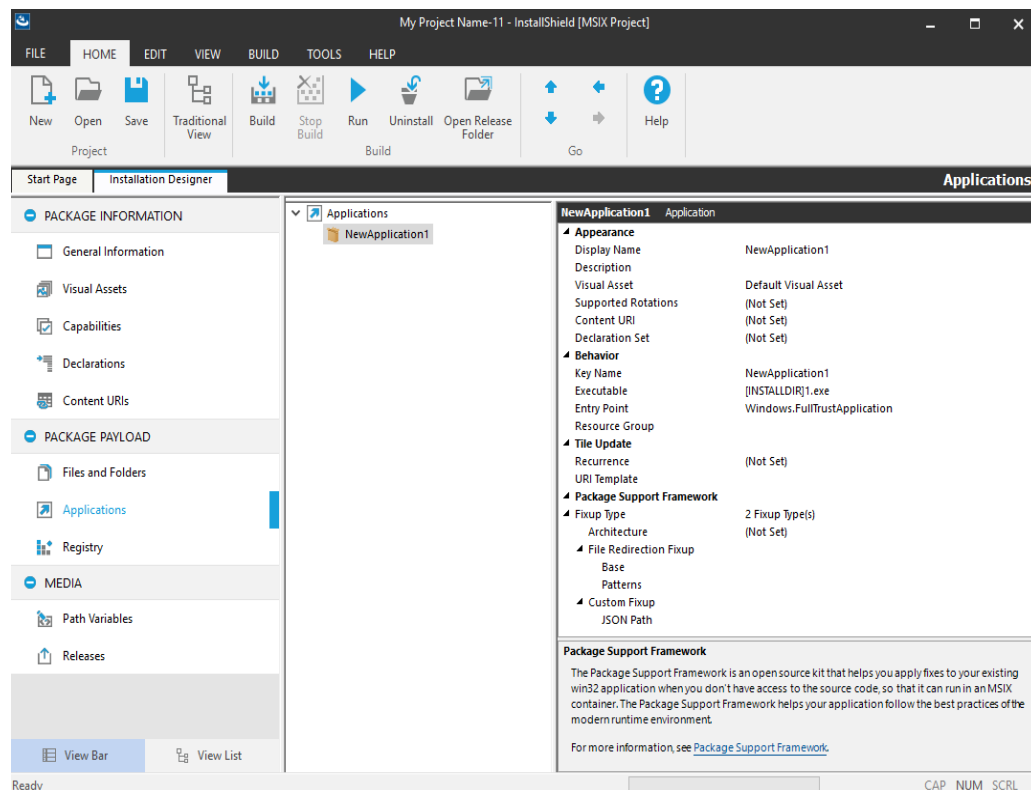
InstallShield 2019 R2 には、以下の変更が含まれています:

- [MSIX - パッケージ サポート フレームワーク](#)

MSIX - パッケージ サポート フレームワーク

パッケージ サポート フレームワークは、ソース コードにアクセスできない場合でも既存する win32 アプリケーションに修正を適用できるオープンソース キットで、MSIX コンテナ内でこれを実行することができます。

これを使って、アプリケーションにモダンな実行環境のベスト プラクティスを適用できます。パッケージ サポート フレームワークには、実行可能ファイル、ランタイム マネージャー DLL、およびランタイム修正プログラムのセットが含まれます。



ユーザーがアプリケーションを起動すると、パッケージ サポート フレームワーク ランチャーが最初に実行されます。ランチャーによって構成ファイルが読み取られ、ランタイム修正プログラムとランタイム マネージャー DLL がアプリケーション プロセスに挿入されます。ランタイム マネージャーは、MSIX コンテナ内で実行するアプリケーションで必要になったときに修正プログラムを適用します。

InstallShield 2019 R2 では、ファイル リダイレクト `fixup` およびカスタム `fixup` などのランタイム修正を適用するパッケージ サポート フレームワークを MSIX で使用できます。

- [ファイル リダイレクト `fixup`](#) - ファイル リダイレクト `fixup` を使って、MSIX コンテナ内で実行するアプリケーションからアクセスできないディレクトリ内にデータを書き込みまたは読み取りしようとする場合にリダイレクトを行います。

- [カスタム fixup](#) - カスタム リダイレクト fixup を使って、アプリケーションに適用する修正を指定する構成ファイルとアプリケーションの互換性問題を解決できます。

R3 で修正されたバグ

InstallShield 2019 R3 で解決された問題については、「[InstallShield 2019 R3](#)」を参照してください。

R2 で修正されたバグ

InstallShield 2019 R2 で解決された問題については、「[InstallShield 2019 R2](#)」を参照してください。

新しい機能

InstallShield 2019 には、以下のような新機能が追加されています:

- [MSIX プロジェクト タイプ](#)を使って MSIX パッケージをビルドする
- [MSI からMSIX への変換ウィザード](#)
- [基本の MSI の MSIX 検証スイート](#)をビルド
- [スイートへの MSIX の追加](#)
- [新しいプロジェクトウィザード](#)

MSIX プロジェクト タイプを使って MSIX パッケージをビルドする

MSIX は Windows アプリ パッケージ形式で、すべての Windows アプリにモダンなパッケージ エクスペリエンスを提供します。MSIX パッケージ形式は、既存アプリ パッケージおよび/またはファイルのインストール機能をはそのままに、Win32、WPF、および WinForm アプリに新しくモダンなパッケージ作成およびデプロイメント機能を追加します。

InstallShield 2019 では、MSIX プロジェクト タイプを使って MSIX パッケージをビルドすることができます。サイドロードまたは Windows ストア経由で配布を行う Windows アプリケーションが含まれます。

- [パッケージ情報](#)
- [パッケージ ペイロード](#)
- [メディア](#)

パッケージ情報

今回より、次を使ってプロジェクトを説明および識別することができます:

- [\[一般情報\] ビュー](#)では、プロジェクト ファイルの名前やフォーマットなどの詳細を指定します。

- [MSIX ビジュアル資産] エクスプローラーでは、統合的に視覚的な方法で、MSIX アプリのビジュアル的な側面を説明することができます。
- [アプリ機能] ビューは、特定の API または画像、音楽、またはカメラやマイクなどのデバイスといったリソースにアクセスできるよう、アプリのパッケージ マニフェスト内で有効化している必要があります。
- [宣言] ビューは、アプリケーション、パッケージ レベルの宣言を作成および管理できるビジュアル ツールを提供し、それらのプロパティを構成することができます。
- [コンテンツ URI] ビューでは、`window.external.notify` を使って Script-Notify イベントをアプリに送る URI を指定します。

パッケージ ペイロード

今回より、MSIX アプリケーションをデザインするファイルを指定することができます:

- [ファイルとフォルダー] ビューで、InstallShield プロジェクトにファイルを追加することができます。ターゲット上にあるフォルダーへこれらのファイルを整理することができます。
- [アプリケーション] ビューを使って、パッケージで提供される機能の一部またはすべてを構成する Windows アプリのプロパティを視覚的および統合的にデザインすることができます。
- [レジストリ] ビューでは、インストールが作成するレジストリキーおよびレジストリ値を定義することができます。

メディア

今回より、インストールを配布するのに利用するファイルとフォルダーをカスタマイズできます:

- [パス変数] ビューでは、変数を使って開発システム間で簡単にインストールを移動させることができます。
- [リリース] ビューには、プロジェクトに含まれる各製品のビジュアルツールがあります。

MSI からMSIX への変換ウィザード

MSI からMSIX への変換ウィザードを使って、既存の Windows Installer ファイル (.msi ファイル) を基本の MSI プロジェクトを通して MSIX パッケージに変換することができます。



基本の MSI の MSIX 検証スイートをビルド

今回より、Microsoft MSIX 標準に準拠する必要がある既存の InstallShield プロジェクトを識別することができます。また、MSIX で動作するために必要な MSI プロジェクト要素の変換に関する情報や手順も提供します。

今回より InstallShield には、InstallShield MSIX 適合性スイートという名前の 1 セットの検証ツールが含まれています。

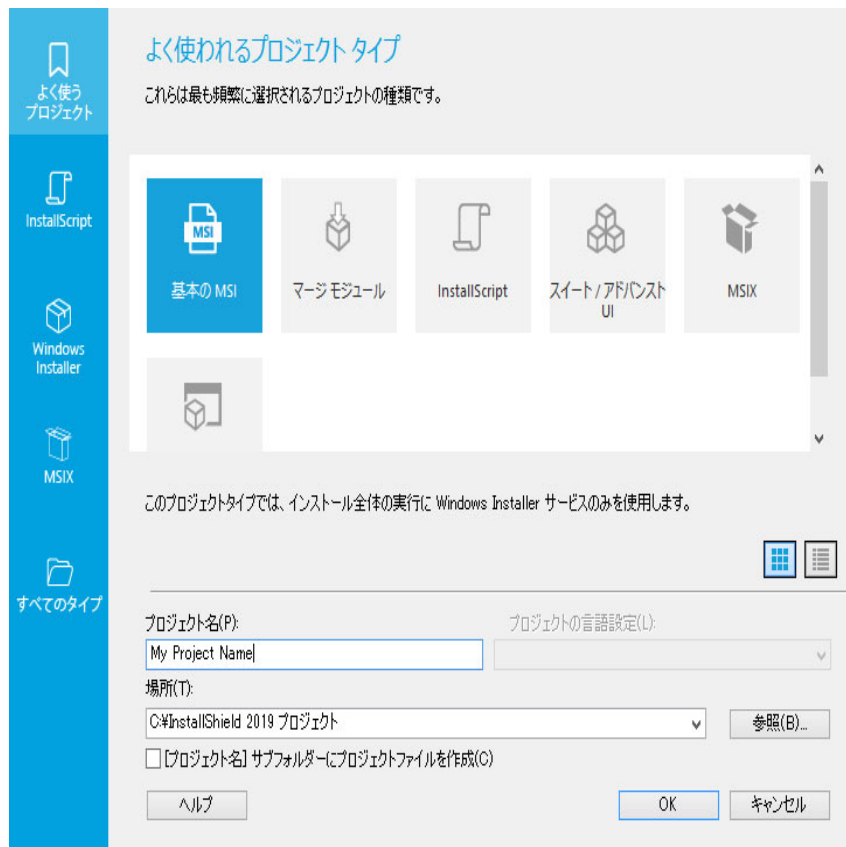
このスイートに含まれる InstallShield MSIX 適合性検証ツール は、.msi パッケージ内で MSIX パッケージ (.msix) フォーマットに適さないアイテムの存在をスキャンします。

スイートへの MSIX の追加

InstallShield 2019 では、スイートに MSIX パッケージを追加して、他のデプロイメント パッケージ タイプと共にインストールすることが可能です。

新しいプロジェクトウィザード

新しいプロジェクト ウィザードを使って、異なるプロジェクト タイプを容易に選択できます。



新しいプロジェクト ウィザードには、次の異なるプロジェクト タイプがあります：

プロジェクトの種類	説明
よく使うプロジェクト	よく使用されるプロジェクト タイプが表示されます。
InstallScript	InstallScript プロジェクトを含み、InstallShield セットアップ エンジンを使用するすべてのプロジェクトタイプが表示されます。
Windows Installer	基本の MSI プロジェクトを含み、Microsoft Windows セットアップ エンジンを利用するプロジェクトが含まれています。
MSIX	Windows アプリ パッケージ形式で、Windows アプリにモダンなパッケージ エクスペリエンスを提供するプロジェクトを含みます。
すべてのタイプ	InstallShield で使用できるすべてのプロジェクトの種類が表示されます。ここには、リポジトリにあるテンプレートだけでなく、以前に保存したプロジェクトテンプレートも含まれます。

強化機能

InstallShield 2019 には、以下の強化機能が含まれています：

- [InstallShield 2019 R2](#)
- [InstallShield 2019](#)

InstallShield 2019 R2

InstallShield 2019 R2 には、次の強化機能が含まれています:

- [連続する署名の遅延](#)
- [IsCmdBld.exe パラメーターを使ってデジタル証明書パスワードを指定する](#)
- [スイート プロジェクトで、ISM パッケージへのリンクに相対パスを使用可能にする](#)
- [SQL 2012 Native Client 前提条件のアップデート](#)
- [PRQ 条件に Windows Server 2019 を追加](#)

連続する署名の遅延

InstallShield 2019 R2 では、連続するデジタル署名の間に遅延を設定することができます。この機能は、タイムスタンプ サーバーが連続する署名要求の処理に失敗した場合のみ必要になります。

Settings.xml の <DevStudio/Build> ノードの下にある <DelayBetweenSigning default="1500"/> ノードで、ミリ秒単位で指定する必要があります。

InstallShield と共にインストールされている Settings.xml ファイルを検出します。Settings.xml は、使用している InstallShield の言語バージョンに応じて、次のいずれかの場所にインストールされています:

- 英語—InstallShield Program Files Folder¥Support¥0409
- 日本語—InstallShield Program Files フォルダー¥Support¥0411

IsCmdBld.exe パラメーターを使ってデジタル証明書パスワードを指定する



プロジェクト • この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します:

- *基本の MSI*
- *InstallScript*
- *InstallScript MSI*
- *InstallScript オブジェクト*
- *マージ モジュール*
- *スイート/アドバンスド UI*
- *アドバンスド UI*

InstallShield 2019 R2 には、デジタル証明書パスワードを指定するための新しいパラメーター (cert_password) が含まれています。これはオプション パラメーターで、コマンドライン ビルド (IsCmdBld.exe) で使用できます。

指定されなかった場合、ファイルの署名にはプロジェクトで構成されたパスワードが使用されます。

スイートプロジェクトで、ISM パッケージへのリンクに相対パスを使用可能にする



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- スイート/アドバンスド UI

InstallShield 2019 R2 では今回より、変更済みのプロジェクトをビルドするとき、相対パスを使って ISM パッケージにリンクすることができます。

SQL 2012 Native Client 前提条件のアップデート



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript
- InstallScript MSI

InstallShield 2019 R2 には、最新バージョンの 2012 Native Client 用の Microsoft SQL Server 2012 Native Client 前提条件 (x86 および x64) が含まれています。

PRQ 条件に Windows Server 2019 を追加



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript
- InstallScript MSI

InstallShield 2019 R2 では、前提条件の条件を Windows Server 2019 の特定のプラットフォーム上で実行するように設定できます。オプションを選択/選択解除して、前提条件エディターで適切な PRQ 条件を設定することができます。

InstallShield 2019

InstallShield 2019 には、以下の強化機能が含まれています：

- 選択された証明書の詳細を表示する
- オペレーティングシステム要件として Windows Server 2019 を追加
- 定義済みインストール条件の追加

- デジタル署名におけるタイムスタンプ サーバーの更新
- MSBuild を使ったスイート プロジェクトのサポート
- デバッグ ログ ファイル名のカスタマイズ
- カスタム リターン コードのカスタマイズ
- セットアップ ファイル名のカスタマイズ
- InstallShield Standalone Build のサポート

選択された証明書の詳細を表示する



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- *InstallScript*
- *InstallScript MSI*
- *InstallScript* オブジェクト
- マージ モジュール
- スイート/アドバンスド UI
- *QuickPatch*
- *MSIX*

InstallShield 2019 では、証明書の全般的な情報や、セキュリティ、証明書パスなどの情報が [証明書の選択] ダイアログ ボックスの [詳細表示] オプションに一覧表示されます。

オペレーティング システム要件として Windows Server 2019 を追加



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- *InstallScript MSI*

InstallShield 2019 では、オペレーティング システム要件セクションに Windows Server 2019 のオプションを追加できるようになりました。オプションを選択/選択解除して、プロジェクトに適切なインストール条件を設定することができます。

定義済みインストール条件の追加



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI

InstallShield に新しい定義済みシステム検索が追加されました：

- Microsoft .NET Framework 4.6.2

インストールで上記が必要な場合、[システム検索] ビューまたはプロジェクト アシスタントの [インストール要件] ページを使って、このシステム検索をプロジェクトに追加することができます。エンドユーザーがインストールを起動すると、Windows Installer はターゲット システムの要件が満たされているかどうかを確認します。要件が満たされていない場合、インストールでシステム検索用に定義されているエラー メッセージが表示されます。

デジタル署名におけるタイムスタンプ サーバーの更新



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- アドバンスド UI
- 基本の MSI
- InstallScript
- InstallScript MSI
- InstallScript オブジェクト
- マージ モジュール
- スイート/アドバンスド UI

InstallShield 2019 で

- SHA-1 を使ってパッケージに署名を行うと、パッケージは次を使ってタイムスタンプを取得します：

```
<DigitalSignature Timestamp="http://timestamp.verisign.com/scripts/timestamp.dll"/>
```

- SHA-256 を使ってパッケージに署名を行うと、パッケージは次を使ってタイムスタンプを取得します：

```
<DigitalSignature TimestampRFC3161="http://sha256timestamp.ws.symantec.com/sha256/timestamp"/>
```

MSBuild を使ったスイート プロジェクトのサポート



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- スイート/アドバンスド UI

InstallShield では、.NET Framework に含まれている Microsoft ビルド エンジン (MSBuild) がサポートされています。MSBuild サポートを使って、Visual Studio がビルド ラボ環境にインストールされていない場合でも、InstallShield で Visual Studio ソリューションをビルドすることができます。

InstallShield 2019 では今回より、MSBuild を使用することで、Visual Studio で作成されたスイートプロジェクト (.sln) をビルドすることができます。

デバッグ ログ ファイル名のカスタマイズ



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- スイート/アドバンスド UI

アドバンスド UI およびスイート/アドバンスド UI プロジェクトで [リリース] ビューの [Setup.exe] タブに新しいオプション **[常にデバッグ ログを作成する]** が追加されました。

InstallShield 2019 では今回より、生成されるデバッグ ログ ファイル名を指定することができます。

カスタム リターン コードのカスタマイズ



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI
- InstallScript

InstallShield 2019 では今回より、実行時に Setup.exe のリターン コードを独自のカスタム値で上書きすることができます。

セットアップ ファイル名のカスタマイズ



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

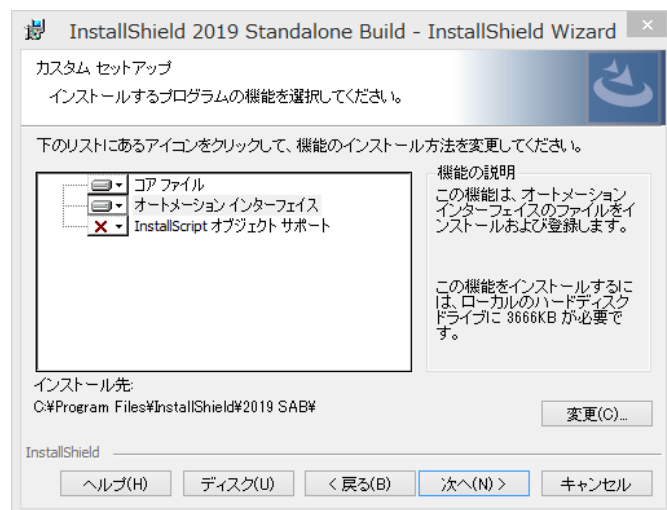
- 基本の MSI
- InstallScript MSI
- InstallScript
- スイート/アドバンスド UI

InstallShield 2019 では、Setup.exe の元のファイル名プロパティをカスタマイズすることができます。

InstallShield Standalone Build のサポート

今回より、InstallShield Standalone Build をインストールした場合、オートメーション インターフェイス機能がデフォルトで選択されています。

これによって、手動で選択せずに、オートメーション インターフェイス機能をインストールすることができます。



追加された前提条件

InstallShield 2019 には、以下の前提条件が追加されています：

- [Microsoft .Net Core 2.1 ランタイム 前提条件](#)

Microsoft .Net Core 2.1 ランタイム 前提条件

InstallShield の [再配布可能ファイル] ビューには、今回より Microsoft .Net Core 2.1 ランタイム 前提条件が追加されています。



メモ・この変更は IOJ-1896156 として記録されています。

重要な情報

InstallShield 2019 リリースに関する次の重要な情報に注意してください：

- [InstallShield の評価](#)
- [InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する](#)
- [InstallShield の複数エディションをインストールする](#)
- [InstallShield の複数バージョンをインストールする](#)

- [\[リリース\] ビュー](#)から [\[.NET/J#\]](#) タブの削除
- [DLL プリロード攻撃対策](#)のため、[DLL 検索パス](#)から現在のディレクトリを削除

同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアをアップデートする必要があります

InstallShield の同時接続ライセンスを使用する場合、InstallShield 2019 を使用する前にライセンスサーバー上の FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンをアップデートする必要があります。

InstallShield の以前のバージョンと共に出荷された FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンでは、InstallShield 2019 のライセンスを管理することはできません。これらのライセンスが使用可能な場合でも、InstallShield 2019 は古いバージョンのライセンスサーバーからライセンスをチェックアウトしません。



メモ・新しいバージョンの FlexNet Licensing Server ソフトウェアを使って、InstallShield 2019 および InstallShield の以前のリリースの両方を管理することができます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアの最新版は、[Flexera 製品 & ライセンス センター](#)からダウンロードできます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアのインストール手順については、「[InstallShield 2016 以降の同時接続ライセンス用のライセンスサーバーを設定する](#)」を参照してください。

InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンスサーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンスサーバーに接続せずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、「[InstallShield 評価版の機能制限について](#)」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield がアクティベートされたとき、またはライセンスサーバーに接続して、そのライセンスがチェックアウトされたときに解除されます。

InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、[\[InstallShield のダウンロードおよびライセンスの使用\]](#) に記述されている通り、フレクセラ・ソフトウェア製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です：

- InstallShield
- 再配布可能ファイル (例えば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト)
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン (使用可能な場合)

- FlexNet Licensing Server ソフトウェア (同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンス サーバーを設定する必要がある場合)
- スキン カスタマイズ キット
- InstallScript オブジェクトのテンプレート
- InstallShield サービス パック (使用可能な場合)



メモ・InstallShield 2019 より、*Collaboration Edition (DIM エディター)* が使用できなくなりました。

InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2019 の Premier、Professional、または Express Edition の中から、同じシステム上に同時に 1 つのエディションのみをインストールできます。また、InstallShield 2019 DIM Editor を、InstallShield 2019 の任意のエディションが搭載されている同じマシン上にインストールすることはできません。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2019 は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2019 Standalone Build は、同じマシン上で別のバージョンの Standalone Build と共存することができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。この両方を同じマシン上にインストールして、オートメーション インターフェイスを使用する場合は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「*Standalone Build と InstallShield を同一マシン上にインストールする*」トピックに記載されている、特殊な登録とアンインストールの考慮について参照してください。

[リリース] ビューから [.NET/J#] タブの削除



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI

インストール デザイナーの [リリース] ビューにあった [.NET/J#] タブは、もともと .NET 1.1/2.0 and J# 再配布可能ファイルをサポートするために提供されていました。これらの古いテクノロジーは、Microsoft によるサポートも停止されました。これに伴い、InstallShield 2019 では [リリース] ビューの [.NET/J#] タブ (並びに関連する [.NET 1.1/2.0 コア言語] と [.NET 1.1/2.0 言語パック] ダイアログ ボックス) が削除されました。

DLL プリロード攻撃対策のため、DLL 検索パスから現在のディレクトリを削除

DLL プリロード攻撃からインストールを守るため、InstallShield は SetDllDirectory Windows API を空白文字列 ("") で呼び出すことで標準 DLL 検索パスから現在のディレクトリを削除しました。

DLL が明示的に別の DLL にリンクされている場合、または完全修飾パス名を指定せずに LoadLibrary() を使ってダイナミックにロードする場合、InstallScript 関数 UseDLL() は現在の作業ディレクトリから依存関係ファイルをロードすることができません。

この問題を回避するには、SetDllDirectoryW (プロトタイプ番号 kernel32.SetDllDirectoryW(wstring);) をプロトタイプ化して SUPPORTDIR で呼び出し、サポート フォルダーを DLL ロード検索パスに含みます。

InstallShield 2019 では、次のように変更されています：

- **Enable** 関数に DLL_DIRECTORY_SUPPORTDIR 定数が追加されたため、カスタマーは SUPPORTDIR を DLL ディレクトリとして使用することを明示することができます。
- **Disable** 関数に DLL_DIRECTORY_SUPPORTDIR 定数が追加されたため、カスタマーは SUPPORTDIR を DLL ディレクトリとして使用しないことを明示することができます。
- SetDllDirectory (szPathName) ラッパー関数が追加されたため、カスタマーは任意のディレクトリを DLL ディレクトリとして使用することを明示することができます。パラメーターが空白文字列 ("") の場合、呼び出しはデフォルトの DLL 検索順から現在のディレクトリを削除します。



メモ・この変更は IOJ-1839017 として記録されています。

プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2016 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2019 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2019 プロジェクトと InstallShield 2016 および以前のバージョンから InstallShield 2019 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

- [InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報](#)
- [ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更](#)
- [文字列のローカライズに関する考慮](#)

InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield で変換が行われる前に、例えば .777 (.ism プロジェクトの場合) または .2016 (.issuite プロジェクトの場合) というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .777 または .2016 を取り除いてください。InstallShield 2019 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできませんので、ご注意ください。

InstallShield 2016 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2019 にアップグレードできます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2019 にアップグレードすることはできませんので、ご注意ください。

ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

スイート以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最小バージョンです。スイート (アドバンスド UI、およびスイート/アドバンスド UI プロジェクト タイプ) の場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最小バージョンです。

文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

エラー/警告番号	メッセージ	トラブルシューティング情報
-7355	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。	この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
-7354	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。	このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていない時に発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

バグ修正

このセクションには、InstallShield の以下のバージョンで修正された顧客の問題が掲載されています:

- [InstallShield 2019 R3](#)
- [InstallShield 2019 R2](#)
- [InstallShield 2019](#)

InstallShield 2019 R3

InstallShield 2019 R3 では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
IOJ-1925598	本リリース以前には、SHA-256 デジタル証明書を使ってインストーラーにデジタル署名を行うと、SHA-256 ダイジェスト アルゴリズムで SHA-1 タイムスタンプを使ってインストーラーのデジタル署名が行われました。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-1994524	以前、InstallShield で InstallScript 関数 RegDBSetKeyValueEx を使って DWORD 値を最大値 (0xFFFFFFFF) に設定することができませんでした。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-2068941	以前、ISM パッケージを含むスイートプロジェクトを新しいバージョンの InstallShield にアップグレードすると、製品構成の値が失われたため、製品構成を編集する時にクラッシュが発生しました。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-2068989	InstallShield 2019 R2 では、製品構成およびリリースが構成された ISM パッケージを含むスイート プロジェクトで、製品構成とリリースの値が失われました。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-2070891	以前、スイート プロジェクトが (異なる ISM パッケージに関連付けられている) 複数の機能を含み、固有のリリース フラグが付けられている場合、InstallShield は個別のリリースに関連付けられたリリース フラグを無視してすべての ISM プロジェクトをビルドしたため、必要以上のリソースが使用されました。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-2071428	以前、マウントされた ISO から基本の MSI で圧縮済みのセットアップを起動中に、エラー (1152: Setup.ini を一時保存場所へ抽出中にエラーが発生しました) が表示されました。この問題は、本リリースで解決されました。

問題番号	問題の概要
IOJ-2072503	<p>InstallShield 2018 SP1 を使って InstallScript プロジェクトをビルドするとき、[メディア] > [リリース] > [Setup.exe] タブ > "Single.exe ファイル名" フィールドに例えば newname.exe などの値を入力すると、正しい値 setup.exe ではなく、その名前を持つ .exe が次の場所に生成されました:</p> <p>C:\Program Files (x86)\InstallShield Installation Information\<製品コード></p> <p>この問題は、本リリースで解決されました。</p>
IOJ-2073877	<p>InstallShield 2019 R2 では、ビルドされた MSIX パッケージにカスタム アイコンではなく、デフォルトのアイコンが含まれました。この問題は、本リリースで解決されました。</p>

InstallShield 2019 R2

InstallShield 2019 R2 では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
IOJ-1927611	<p>[Web からインストールする] が選択されているリリースは、セットアップがサーバー上でホストされている場合に実行することができませんでした。この問題は、本リリースで解決されました。</p>
IOJ-1927088	<p>以前、InstallScript プロジェクトでマージ モジュール オブジェクトを「デフォルト機能」に追加しようとすると、エラーが表示されました。この問題は解決されました。</p>
IOJ-1925433	<p>更新に問題があったため、ダイアログのコントロール プロパティ情報が完全に表示されませんでした。本リリースでは更新問題が解決され、コントロール プロパティ情報が完全に表示されるようになりました。</p>
IOJ-1918371	<p>日本語 OS にインストールしたとき、.config ファイルの日本語の文字が別の言語の文字に変換されました。この問題は解決され、日本語の文字が正しく保持されるようになりました。</p>
IOJ-1621607 IOJ-1624889	<p>InstallScript MSI でスキン適用ダイアログを使用したとき、SetupStatus ダイアログのステータス バー テキスト コントロールが次のテキスト文字列で上書きされました。この問題は解決され、テキストを上書きではなく前後に並べて表示することで読み取り可能となりました。</p>
IOJ-1662015	<p>トランスフォーム プロジェクトにカスタム アクションを追加すると、InstallShield がクラッシュしました。これは、CustomAction テーブルスキーマに ExtendedType 列を持たない (Windows Installer 4.0 以前を使ってビルドされた) 古い MSI ファイルに固有の問題でしたが、本リリースで解決されています。</p>

問題番号	問題の概要
IOJ-1893776	InstallShield (InstallShield 2016 以降) の IsCmdBld.exe は、InstallShield のより新しバージョン (InstallShield 2018 以降) で作成されたプロジェクトをビルドするときに、ERRORLEVELを適切なエラーコードに設定しませんでした。この問題は、ERRORLEVEL をエラーを示すゼロ以外の値に設定することで解決されました。
IOJ-1902456	ビルドが 64 ビット実行可能ファイルから COM 情報を抽出できない問題。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-1908220	パッケージをスイート プロジェクトに追加処理中、[プロパティ] ダイアログ ボックス内にある [詳細] タブの値として、Setup.exe プロパティ名に実際の製品名を表示する代わりに "ID_STRING" が表示されました。この問題は、"製品名" の値を表示することで解決されました。
IOJ-1920140	[Windows Installer 4.0 以降のログ記録オプション] ダイアログ ボックス の [MSI ログ記録の作成] オプションで [はい] に設定した値が、再び [Windows Installer 4.0 以降のログ記録オプション] ダイアログ ボックスを開いたときに [カスタム] に変更されました。この問題は、選択された値を保持することで解決されました。
IOJ-1842645	[ダイレクト エディター] ビューで、行数の多いテーブルを持つデータベースで特定のテーブルをクリックすると時間がかかりました。 この問題は、[ツール > オプション > プリファレンス > ダイレクト エディター > 破損した参照制約の確認] オプションを提供することで解決されました。デフォルトで、このオプションは選択されています。ダイレクト エディターのパフォーマンスを優先して、これを選択解除することができます。
IOJ-1923651	インストーラーは SHA-256 デジタル証明書を使ってデジタル署名されましたが、タイムスタンプに誤ってSHA-1 が表示されました。この問題は SHA-256 タイムスタンプを表示することで解決されました。
IOJ-1921509	スイートの PostBuild イベントを、オートメーション レイヤーを使って設定することができませんでした。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-1885348	DLL 'DScript.dll' の登録処理中に ISSelfRegisterFiles アクションがフリーズしました。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-1930510	ARM テンプレート概要でコンポーネントを 64 ビットに設定すると、ビルドが失敗しました。この問題は解決され、ビルドが正しくインストールされます。
IOJ-1990952	言語にスペイン語を選択した場合、ランタイム中に文字列 IDS_DestinationFolder_InstallToが予定通り表示されませんでした。この問題は、実行時のインストール先ダイアログで、"Installar" と "My Project Name-1" との間に空白スペースを追加することで解決されました。
IOJ-1918894	PendingFileRenameOperations が、setup.exe デバッグ ログで 'Value' ではなく 'Key' として参照されました。この問題は、参照を 'Value' に変更して解決されました。

InstallShield 2019

InstallShield 2019 では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
IOJ-1900586	InstallShield によって生成された実行可能ファイルのバイナリ スキャンを実行中、すべての基本の MSI プロジェクトは Zlib 1.2.3 バージョンの脆弱性をレポートしました。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-1920450	InstallShield で古いバージョンの darice.cub が使用されていました。そのため、サンプルの基本の MSI プロジェクトでフル MSI 検証を実行したとき、MSIConfigureServices アクションがエラー - ICE27 を生成しました。この問題は、darice.cub の最新版に更新することで解決されました。
IOJ-1892604	以前、[コンポーネント] ビューで、ダイナミック ファイル リンクがファイルを表示しませんでした。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-1895875	以前、再配布可能ファイル ダウンローダー一覧に、古い情報が含まれていました。この問題は、再配布可能ファイル ダウンローダー一覧を最新版の再配布可能ファイルに更新することで解決されます。
IOJ-1894189	ドイツ語をセットアップ言語に追加すると、文字列エントリ IDS IsVerifyReadyDlg_ModifyReady の翻訳に誤りがありました。この問題は、文字列のテキストを訂正することで解決されました。
IOJ-1888066	InstallShield でスイート プロジェクトをビルド中、[Setup.exe から抽出] オプションに含まれるファイルの更新日が変更されました。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-1907614	以前、Windows Server 2016 上に .NET Framework 4.6.2 が既にインストールされているのにも関わらず、インストーラーがこれをインストールしました。この問題は、Windows Server 2016 上に .NET Framework 4.6.2 をインストールしないように防ぐ、前提条件のインストール条件を追加することで解決されます。
IOJ-1883550	以前、システム構成で特定の XML ファイルを選択した場合、基本の MSI プロジェクトを閉じると、エラー「データベースが開いていません。無効な操作です。」が発生しました。本リリースで、このエラーが発生することは無くなりました。
IOJ-1888425 IOJ-1884771	InstallScript でビルドされたセットアップ実行可能ファイルで、マシンの再起動を要求する前提条件を含む場合、エラー (5001) が表示されました。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-1910908	ライセンス サーバー インストーラー (FlexNetLicensingServer11_14_0_1.exe) が必要な前提条件をバンドルしなかったため、オフライン環境でインストールに失敗しました。この問題は、本リリースで解決されました。
IOJ-1911911	[再配布可能ファイル] ビューの [詳細] ページで、最初に表示される前提条件だけが更新され、後に続く前提条件は更新されませんでした。この問題は、すべての前提条件の更新済み「詳細情報」を参照することで解決されました。

問題番号	問題の概要
------	-------

IOJ-1907284	以前、InstallShield が依存ファイルを含むマージ モジュールを参照後にクラッシュしました。この問題は、本リリースで解決されました。
-------------	-------------------------------------------------------------------------

システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

InstallShield を実行するシステムの要件

InstallShield は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

項目	説明
プロセッサ	Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)
RAM	256 MB の RAM (512 MB 推奨)
ハードディスク	750 MB 空き領域
ディスプレイ	1024 x 768 (XGA) 以上の解像度
オペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none">Windows VistaWindows Server 2008Windows 7Windows Server 2008 R2Windows 8Windows Server 2012Windows 8.1Windows Server 2012 R2Windows 10Windows Server 2016Windows Server 2019
権限	システムの管理者権限
マウス	Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス

項目	説明
InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション)	<p>Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier Edition または Professional Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Visual Studio 2008 • Visual Studio 2010 • Visual Studio 2012 • Visual Studio 2013 • Visual Studio 2015 • Visual Studio 2017 • Visual Studio 2019 <p>Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Premier または Professional Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Professional • Premium • Ultimate

ターゲット システムの要件

スイート (アドバンスド UI、およびスイート/アドバンスド UI プロジェクト タイプ) 以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最小バージョンです。スイートの場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最小バージョンです。

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最小要件を満たさなくてはなりません:

- Windows XP SP3
- Windows Server 2003 SP2
- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Windows 10

- Windows Server 2016
- Windows Server 2019

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

既知の問題

InstallShield 2019 における既知の問題は次の通りです:

エラーメッセージ	説明
VC++ 2015 を 2017 にアップグレードすると、'14.0' キーが削除される	このエラーは、VC++ 2015 が搭載されているマシン上に VC++ 2017 をインストールすると発生し、一般的にインストールの検出に使用されるレジストリキーが削除されました。

法的情報

著作権情報

Copyright © 2019 Flexera.All Rights Reserved.

この出版物には、Flexera およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本技術およびそれに関する情報のすべての複製は、Flexera より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

知的財産

Flexera が所有する商標および特許の一覧は、<https://www.flexerasoftware.com/producer/company/about/intellectual-property/> を参照してください。Flexera 製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

(米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商業用コンピュータ ソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。